

# 校内研究

## 1 研究主題

### 自ら学び続ける子どもの育成

～一人一人が知識を働かせ、思いをつなぐ子どもをめざして～

## 2 主題設定の理由

令和6年度から、多様化する一人一人の子どもについて指導者がより理解を深め、個性を尊重して支援・指導に取り組むことにより、子ども達の資質や能力を一層伸ばすことができるのではないかという考えのもと研究を進めている。

令和6年度については、豊田小学校の子ども一人一人を徹底的に大切に、子ども達が安心してのびのびと学ぶことができるようにする「個別最適な学び」に重点を置き、知識や考えを仲間とつなぎ合いながら深めていく「協働的な学び」と関わらせながら、各教科で研究を進めてきた。

令和7年度については、研究主題のサブテーマ～一人一人が知識を働かせ、思いをつなぐ子どもをめざして～について、迫っていくこととする。

## 3 研究の重点

子どもの個性や、学習の単元や場面ごとに子ども達一人一人の思考の段階について指導者が理解し、個別最適な学びとはなにか、どのような手立てがあるのかを考えて教材研究を行う。子ども達の疑問や願いから学習をスタートし、学習計画の見通しを共有することで、必要感をもって主体的に学びをつくっていくようにする。

また、子ども達一人一人の思いや考えを、他者と関わることで深めることができるようにする。「思いや考えを交流したら、こんないいことがあった」と、自分以外の思考を知ることの良さを自覚し、自らの考えの深まりに気付くことができるよう、指導者が学習をコーディネートする。

その中で、以下の2点を重点として行っていく。

### (1) 一人一人が知識を働かせる姿の具現化

【一人一人が知識を働かせる姿】は学習の中で、次のような場面が考えられる。

- ・「課題に対して、どのように考えられるか」 ・「自分の考えを、どのように友だちに伝えるか」
- ・「聞いたことをもとに、どうやって自分で課題にかかわろうか」
- ・「学んだことをもとに、新たな学習に活用できないか」と知識を働かせる姿。他にも様々な場面が考えられる。

### (2) 思いをつないでいる姿の具現化

子ども達が、【思いをつないでいる姿】は学習の中で、次のような場面が考えられる。

- ・「この学習を通して自分がどう成長したいかと単元のはじめと終わりを自分自身の中でつなぐ」
- ・「友だちから聞いたことを自分の中で理解し、他の友だちへ伝える」
- ・「学んだことを他教科へつなごうとする」

【一人一人が知識を働かせる姿】【思いをつなぐ姿】は具体的にどのような姿なのか、その精度を高め我々教職員が共有していく。自ら学び続ける子どもの育成につながる【一人一人が知識を働かせる姿】

【思いをつなぐ姿】を次年度につなげていきたい。

上記2点は、密に関わっていると考える。思いをつなぐために知識を働かせる。知識を働かせたことで、新たな思いが芽生える。行きつ戻りつしながら、自ら学び続ける子どもの育成にあたっていきたいと考える。

## 4 研究の方法

### (1) 一人一授業の授業研究と実践を通じた検証

- ① 学習する単元において、個別最適な学び、協働的な学びの中での【一人一人が知識を働かせている姿】【思いをつないでいる姿】について、指導者が期待する姿、その手立てを指導案に明記して検証し、変容した子どもの姿や子どもの育ちを評価し授業改善に生かす。
- ② 学年部ごと1授業について助言者を招聘し、教科の専門性や、子どもや学級全体の変容に焦点を当てて、指導助言していただく。その他の授業については、校内のみでの公開授業とする。

### (2) 研究の具体的な進め方

- ① 指導案の作成…今年度の重点について、期待する姿とその手立てをまとめる。
- ② 事前研究会（学年部ごと）…研究の重点に沿った学習かを検討する。
- ③ 授業研究会（助言者あり）…研究推進委員で役割分担し、子どもの姿を写真で記録する。  
授業研究会（助言者なし）…学年部で子どもの姿を写真で記録する。
- ④ 事後研究会…今年度の重点について、子どもの変容などをもとにワークショップ形式で協議する。
- ⑤ 授業研究会のまとめ発行…事後研究会後、授業者が協議内容と指導助言をまとめ、単元終了後、全員に配付する。
- ⑥ 研究紀要…自分の実践を振り返り、研究実践を通して学んだことやその後の実践に活かしたことを分析し、まとめる力を磨く研鑽の場としてとらえる。また、校内研究として全体で振り返り、次年度の研究へとつなげていく。